

山の手だより

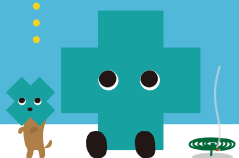
No
30



6月25日新病棟西館屋上ヘリポートにて札幌市消防局ヘリによる離着陸訓練を実施いたしました。

TAKE FREE

ご自由にお持ち帰りください



30号目次

北海道医療センター開院10周年を記念して

～新型コロナウイルス感染症とのたたかいの中で～	院長 菊地 誠志	2P
新型コロナウイルス感染症第1～2波を経験して	副院長 長尾 雅悦	3P
新型コロナウイルス感染症の治療薬について	感染対策室長・呼吸器内科医長 網島 優	5P
コロナウイルスのPCR検査について	検査科 感染制御チーム専任検査技師 今井 直木	5P
新型コロナウイルスの感染対策に重要な手洗い	副看護師長 八谷 有香	5P
たくさんのご支援を頂きありがとうございます		6P
日常的に大切な感染対策		8P

まいにちから、
まんいちまで。

北海道医療センター開院10周年を記念して

～新型コロナウイルス感染症とのたたかいの中で～

院長 菊地 誠志

北海道医療センターは、2010年3月1日、2つの病院と1つの部門が統合されて誕生しました。医療機能、経営基盤の両面で、大きな不安を抱えての船出でした。3次救命救急センターの指定を受けながら、実質的にはゼロからのスタートでした。新設の診療科が多く、一方では、不採算にならざるを得ない診療機能を担うことにもなりました。救急医療からセーフティーネット系医療までを対象にするハイブリッド型病院は、日本中のどこを探しても存在せず、従って、経営が成り立つかどうかの保障もありませんでした。以来、工夫を重ねながら、今日に至りました。逆に、国立病院機構であることによる種々のハンディキャップを背負っての運営を余儀なくされ、長く赤字経営が続きました。非効率とのそしりを受けることも度々でしたが、2019年度、とうとう、初の黒字を達成しました。これで、非効率の非難が的外れであることが証明されました。



なにより、不採算と云われてきた結核病棟があったからこそ、現在、新型コロナウイルス感染症への対応が可能になっているのです。2月20日、北海道医療センターは、新型コロナウイルス感染症の直近の発生状況から、独自の判断により、結核病棟の新型コロナウイルス感染症病棟への転換(18床)と一般ICUの重症患者への使用(2床)を決定し、札幌市および札幌市医師会に報告しました。その後、第2波を迎えて、新型コロナウイルス感染症対応ベッドを増床(30→43)(4月20日)しました。さらに、4月28日の札幌市の会議での議論をうけて、軽中等症を43床からさらに71床(新たに地域包括ケア病棟を新型コロナウイルス感染症病棟へ転換)へ、重症を3床から10床(新たに救命救急センターを新型コロナウイルス感染症病棟に転換)へ増床し、同時に、3次救急の受け入れ中止、2次救急の受け入れ制限を決定しました。同日、「コロナ専門病院」となることを、院内に宣言しました。

5月25日、政府から新型コロナウイルス感染症に対する緊急事態宣言を解除する旨の談話が発表されました。今後の経済活動および社会活動の再開に向けた第一歩と位置づけられ、大いに歓迎されるところです。しかし、以前の日常が100%戻ってくるわけでは決してありません。宣言解除から1ヶ月以上が経過しているにもかかわらず、最近の感染者数を見る限り、札幌圏の新



新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策会議の様子



新型コロナウイルス感染症患者を受け入れたICU(集中治療室)の様子

型コロナウイルス感染症の収束にはもう少し時間がかかると考えざるをえません。

新型コロナウイルス感染症の医療については、北海道医療センターを含む市内医療機関のネットワークでしっかり対応できています。このネットワークは強力なもので、フェーズ毎の対応スケジュールに則って、統制の取れたベッド確保・調整が行われています。病院の収容能力は、十分です。しかし、感染者を減らすことは病院の役割を超

えています。それは、みなさん市民1人1人の節度ある行動にかかっています。想像力を働かせてください。その行動の結果がどうなりうるのかと。

さて、今なすべきこと、最優先の医療ということで、新型コロナウイルス感染症の診療に力を注いできた北海道医療センターですが、経営面では大打撃を被っています。4月は1.5億円の赤字、さらに、5月は4億円の赤字でした。しかし、市民のみなさんが必要とする病院なら必ず復活できると信じて、今はその責務をはたすのみと覚悟を決めています。

時々刻々と変化する状況にいかに対応するか。生き残ることができるのは、賢いものではない、強いものでもない、変化できるものである(ダーウィン)。北海道医療センターは10年前とは全くちがう病院になりました。北海道医療センターは、これからも、たゆまず変化し続けます。

新型コロナウイルス感染症第1～2波を経験して 副院長 長尾 雅悦

2019年12月に中国湖北省武漢市で集団発生した新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に海を渡り、1月16日には国内最初の患者が、同28日には道内でも中国人観光客が発症しました。2月1日には二類指定感染症となり、ダイヤモンド・プリンセス号での感染も発覚し、坂道を転げ落ちるようにコロナ色の世界に入ってしまったような気がします。そして2月14日には市立札幌病院に最初の一般市民が入院し、とうとう逃げることのできない状況に追い込まれました。当院も2月20日から結核病棟と一般ICUをコロナ専用とし、病院全体で迎え撃つ体制に入りました。



思い返せば2003年に中国広東省から広がった重症急性呼吸器症候群(SARS)は「世界規模の健康上の脅威」となった21世紀最初のコロナウイルス感染症でした。感染拡大した際は私も新千歳空港に検疫のお手伝いに行きましたが、幸い日本は水際で食い止めたので、遠い国の出来事であったような記憶しかありません。2009年には新型インフルエンザの世界的流行がありました。この時は国を挙げての防疫体制を敷いたのにも関わらず、瞬く間に全国に広がり多くの人が感染して、結局は季節性インフルエンザと同じ扱いになりました。当院の前身の西札幌病院時代の出来事ですが、中庭に発熱外来を仮設し、ドライブスルーで検体採取してその場で迅速検査をしておりました。今回の新型コロナウイルス感染症との大きな

違いは、既存の検査法と治療薬が有効であったことです。

今回の新型コロナウイルス感染症1～2波ではこれまでの経験や知識では太刀打ちできない数多くの問題を投げつけられました。中でも院内感染の可能性と常に隣り合わせで診療を継続することに、多くの時間と労力、そして感染防御のための大量の消耗品を投入してきました。ひとたびコロナの疑い例が出たら、PCR検査を札幌市衛生研究所に依頼し、結果が出るまで祈るような気持ちで過ごす日々が続きました。もし陽性だった場合の濃厚接触者のリストを準備し、診療体制の継続が可能かを検討する作業も必要となりました。

当院と市立札幌病院がコロナ診療に特化して3次救命救急センターとしての機能を止めざるを得なくなり、札幌市の救急体制に大きな影響を与えました。同様に結核診療も休止しましたので、全道レベルで受け入れ病床の調整をする事態となりました。

新型コロナ感染症の入院患者は6月末まで130人に及び、札幌市内のみならず近郊(小樽、江別、北広島、千歳、岩見沢等)からの受け入れ要請にも応じてまいりました。第1波ではADLが自立し働き盛りの50～60代が多かったのですが、第2波では病院・施設等でのクラスター発生のため介護度の高い高齢者が目立ちました。重症者の発生も一定の割合であり、予後を改善する画期的な治療法の開発が急がれます。

これから予想される第3、4波へ対応する知恵と経験は蓄積されつつあり、PCR検査も拡充されてより安心して受診していただける環境になっていくと思います。まだまだ忍耐を強いられる日々が続きますが、皆様のあたたかい応援で新たな幕がまもなく開きそうです。

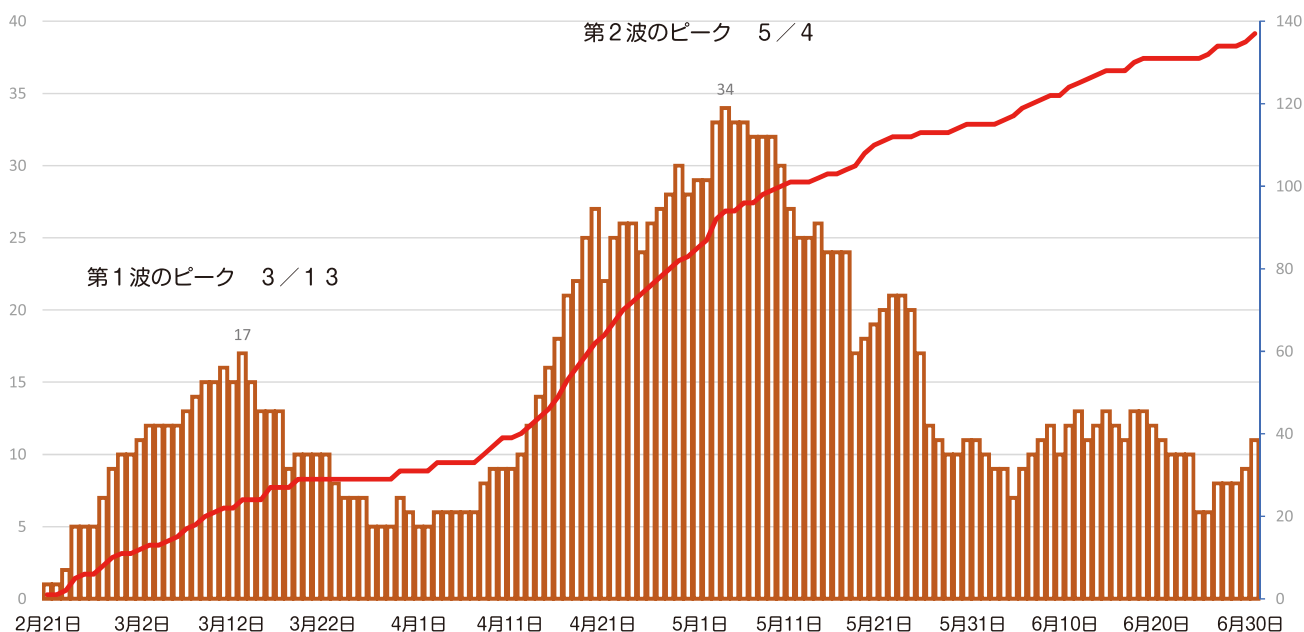


病院入口にて外来患者の体温を測定する様子

1日あたり
入院患者数
(人)

新型コロナウイルス感染症入院患者数の推移

入院患者数
累計(人)



(北海道医療センター)

新型コロナウイルス感染症の治療薬について

感染対策室長・呼吸器内科医長 網島 優

新型コロナウイルスの治療薬についてはいろいろな薬の名前をお聞きになっているかと思いますが、今のところ決め手となるような薬はありません。当院でも新型インフルエンザ用に国で備蓄されていたアビガンは比較的当初から使用しておりますが、効果のある方も、使用していても重症化してしまう方もあり、通常のインフルエンザに使用するタミフルなどの様に使用すればほとんどの方が数日で解熱して楽になるということではないようです。また日本で効果が初めて報告されたぜんそくの吸入ステロイド薬のオルベスコも当初から使用しておりますが、一部の方には速やかな解熱効果を認めております。しかし吸入薬のためうまく吸えない方もおられ、効果が乏しい方も少なくありません。唯一国が認可したレムデシビルは当科ではまだ使用経験がありませんが、重症者に対する効果はいろいろな報告で異なり、「夢の特効薬」とまでは言えないようです。今の時点では、確実な効果のある薬の誕生を待ちつつ、使用できる治療薬を組み合わせずて患者さんの治療を行っております。

コロナウイルスのPCR検査について

検査科 感染制御チーム専任検査技師 今井 直木

細菌やウイルスは、たいへん小さなものです。臨床検査では増やしてその正体を突き止めようとしています。細菌は人工物で増やせますが、ウイルスは増やせません。そこで、ウイルスの遺伝子を増やします。ウイルスを遺伝子レベルでばらばらにします。死んでいるのでもう悪さはしません、遺伝子として残ります。これに増幅試薬を加え、どんどん増やして機械で測定できるようにします。この方法をPCR検査といいます。

新型コロナウイルスの感染対策に重要な手洗い 副看護師長 八谷 有香

新型コロナウイルスは感染者が咳やくしゃみをしたときに口や鼻から飛び出す飛沫を直接吸い込んだりすることはもちろん、ウイルスが付着している手指が眼、鼻、口の粘膜に触れることによっても広がっていきます。そのため、「飛沫に曝露しない」および「手洗いをする」は新型コロナウイルスに対する重要な感染対策となります。

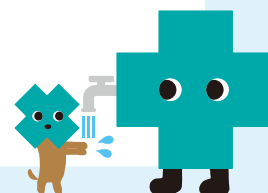
健康な人でも新型コロナウイルスに感染する可能性があり、そのなかの一部の人々が重症化します。感染する可能性を減らすには病院で行われている「衛生的手洗い」を日常生活でも行うことが大切です。

「衛生的手洗い」のポイント 30秒かけて行いましょう!

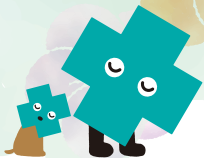
- ①しっかり泡立てる
- ②洗い残しに注意
- ③ペーパーやタオルでふき取る



シワやさかむけ、手が乾燥していると汚れが落ちにくいので、ハンドクリームなどで手のケアをしましょう!



たくさんのご支援



を頂きありがとうございます



皆さまからのご支援と
心あたたまる励ましのお言葉を頂き、
大変励みになりました。

職員一同

日常的に大切な感染対策

感染症は無症状や軽症の人であっても他の人に感染を広げる例があり、感染対策には自らを感染から守るだけでなく、周囲に感染を拡大させないことが不可欠です。このため、ご自身や大切な人の命を守るために日常生活の中で感染対策を心がけましょう。

3つの密を避ける

- 1.換気の悪い密閉空間
- 2.多数が集まる密集場所
- 3.間近で会話や発声をする密接場面



マスクの着用

他の人に近づく場合は、飛沫を飛ばさないようにマスクをつけましょう



手洗い、アルコール消毒

外出先からの帰宅時や調理の前後、食事前など口や鼻に触れる前にこまめに石けんなどで手を洗いましょう（アルコール消毒も有効です）



健康的な生活

十分な睡眠とバランスのよい食事を心がけましょう



まいにちから、
まんいちまで。

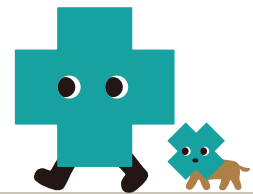


独立行政法人 国立病院機構

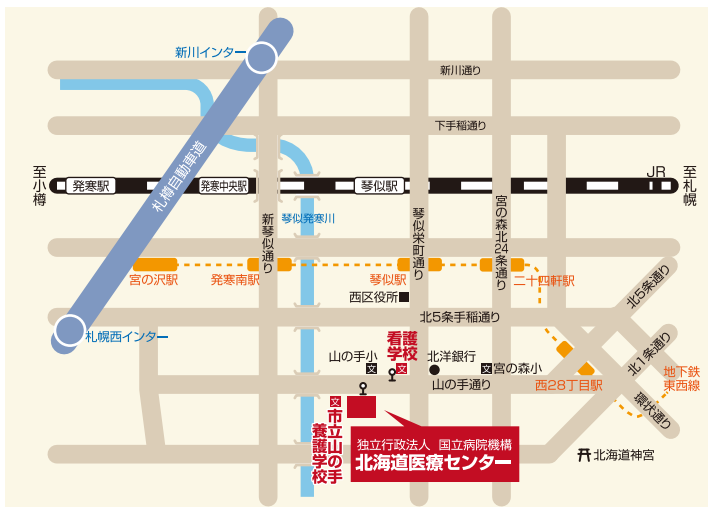
北海道医療センター



TEL 011-611-8111



〒063-0005 札幌市西区山の手5条7丁目1番1号



●交通のご案内

地下鉄東西線 西28丁目 ●●●●● ●●●●●
 循環西21 山の手線 北海道医療センター前 下車
 西21 山の手線 北海道医療センター前 下車

地下鉄東西線 宮の沢駅 ●●●●● ●●●●●
 JRバス 西21 山の手線 北海道医療センター前 下車

地下鉄東西線 琴似駅 ●●●●● ●●●●●
 JRバス 琴43 西野中州橋線 北海道医療センター前 下車

JR JR琴似駅 ●●●●● ●●●●●
 タクシーご利用の場合
 ○JR琴似駅より.....約1,200円前後
 ◎地下鉄琴似駅より.....約1,000円前後

車で ●●●●● ●●●●●
 旭川・苫小牧方面より自動車ご利用の場合
 札幌自動車道新川インターから新琴似通り経由、山の手通り沿い

小樽・余市方面より自動車ご利用の場合
 札幌自動車道札幌西インターから北5条手稲通り、新琴似通り経由、山の手通り沿い

<https://hokkaido-mc.hosp.go.jp>

北海道医療センター

検索

発行所/独立行政法人 国立病院機構 北海道医療センター
 発行責任書/広報室長 柴崎 跡也
 発行日 2020年7月

札幌市西区山の手5条7丁目1-1
 電話(011)611-8111 / FAX(011)611-5820
 ホームページ <https://hokkaido-mc.hosp.go.jp>